

## 一日教育委員会（教育懇談会）意見交換記録

□日 時 平成22年8月10日（火） 13:30～

□場 所 上野原市文化ホール会議室

□出席者 101名

（内訳）PTA関係者 87名

市町村教育委員会関係者 14名

### （意見・質問1）

- ・ 勝山小が統合される。児童生徒は、少人数学級が大人数になり、戸惑いが生じることと思われる。
- ・ 統廃合される小・中学校には特別な措置をお願いしたい。

### （意見・質問2）

- ・ 大月短大付属高等学校が廃校になり、この地域の入学定員が少なくなってしまう。どう考えているのか。

→（応答：新しい学校づくり推進室長）

- ・ 同校は、平成24年度から募集停止となる。
- ・ このため、定員の減少分については、東部地域の県立4校へ割り振ることになる。

### （意見・質問2）

- ・ 大月短大付属高等学校が廃校になるため、富士・東部地域には商業科がなくなってしまう。谷村工業高校へもっていくのか？商業は大切だと思う。どう考えているのか。

→（応答：新しい学校づくり推進室長）

- ・ 大月高校には定員70名の商業科がある。
- ・ この地域に、商業科が必要なのか、また、商業科目を学習できる総合学科の系列を設けるかなど、今年度中に結論が出るよう検討を進めている。

### (意見・質問3)

- ・小学校1・2年生は、はぐくみプランにより少人数学級となっているが、3年生になったときに大人数の学級となる。
- ・保護者も子どもも、不安になってしまう。少人数学級の拡大を要望したい。
- ・また、一方で学校の統廃合が進んでいる。小規模校で過ごしてきた子どもにとっては、大規模校になることは、戸惑いや脅威になるのではないか。
- ・ぜひ少人数学級の拡大をお願いしたい。教育委員会はどのように考えているのか。また他の学校ではどのように考えているのか伺いたい。

#### → (応答：総務課長)

- ・国が、少人数学級について検討している。
- ・山梨県では国に先行して少人数学級を実施しているが、もう少しすると国の答申が出るので、これに合わせる形で実施していくこととなる。
- ・しかしながら、少人数学級を実施すれば学級数が増加することとなり、教員の人数が増え財政負担は増えるという問題もある。
- ・具体的な話はもう少し先になるが、少しずつ進めているところである。

#### → (応答：他の出席者)

- ・少人数学級は、これからも山梨県は国に先行して是非やっていただきたい。

#### → (応答：他の出席者)

- ・統廃合による児童生徒への心のケアとしてスクールカウンセラーの設置を積極的に行って頂きたい。できたら常駐できるスクールカウンセラーの配置をお願いしたい。

#### → (応答：義務教育課長)

- ・国は、児童生徒数により学級数を決めている。
- ・統廃合については、子どもたちの心の問題があるため、当初は規定よりも多めに教員を配置できることとなっている。
- ・また、スクールカウンセラーの設置についても、小学校への配置も行っているため、ある程度対応できると考えている。
- ・新しい取り組みとして、スクールソーシャルワーカーというものが不登校対策のために設けられており、これは教育事務所に配置しているので大いに活用していただけたらと考えている。

### (意見・質問4)

- ・加配されるのは、1年だけだと聞いている。1年だけではあまり意味が無いような気がする。最低でも2年は必要だと思う。

→ (応答：義務教育課長)

- ・現在の規定では1年だけということになっている。

→ (応答：総務課長)

- ・統合ということだけになると加配1年ということとなる。
- ・このほかにも、生徒数や不登校生徒数にも応じた加配というものもあるので、学校の実情に対して、可能な限りの対応はしていく方針である。
- ・財政的な負担が伴うことであり、工夫をしながらの対応となってしまう。

(意見・質問5)

- ・特別支援学校はどんどん児童生徒が増加している。
- ・ふじざくら支援学校は開校時から比べると2倍となっており、教室が無くなってしまっているのが現状である。
- ・体育館的な建物を2つに割って教室にしたり、ランチルームにも入りきれないので半分は自分の教室で食べる事態となっている。
- ・先生方のロッカーも無い状態であるので、施設の拡充をお願いしたい。
- ・また、私は東京から引っ越してきたが、山梨県の方が特別支援教育の取り組みが進んでいる。盲学校の先生がサテライト教室として、教えに来てくれたりして本当に感謝している。

→ (応答：新しい学校づくり推進室長)

- ・現在、ふじざくら支援学校をはじめ、特別支援学校の児童生徒が非常に増えている。
- ・そこで「特別支援教育振興審議会」を設置し、教室不足も含めて、今後どのように支援学校を整備していくのか検討しているところである。

(意見・質問6)

- ・娘のバスケットの試合へ行って感じるのだが、恵まれた時代だからかもしれないが、親離れ、子離れが出来てない気がする。
- ・子どもがどうしても出来ないところは親が手を差し伸べるべきだと思うが、例えば少人数学級で10人になれば子どもが伸びるのか、先生が多ければ成績が伸びるのか、そういう問題ではないと思う。
- ・昔は、多人数学級だったし、恵まれた時代ではなかったから甘やかされて育ったわけではなかった。
- ・そういうことで子どもが自立できず、伸びていかないのではないかと感じるが、どう考えるか？

→ (応答：教育長)

- ・違った視点で良い意見だと考えます。
- ・現在は少人数学級の方に世間が向いていて、それが唯一無二のように話されるが、大きい学級にもメリットはある。
- ・私が中学校のときに統合があった。大きな学級となって、そこでしか学べないこともたくさんあった。
- ・日本は少子化が進んでおり、10年後には、山梨県では普通高校で換算すると6校分減ることとなり、ものすごいスピードで減っていくこととなる。
- ・しかし、世界では爆発的なスピードで人口が増えていくため、これからはかつて経験したことのない時代となる。
- ・大人は、現役バリバリで支援することはできなくなっていくのに、子どもたちに対して、予め障害を取り除いていくようなことをしていくのは、後に、子どもたちに可哀想な思いをさせることとなる。
- ・むしろ遅く育たせなければならない。厳しいものというのは更なる子どもたちへの愛だと考える。

→ (応答：出席者)

- ・今の子どもたちは、家庭環境が様々で、小中高校になっている段階でいろいろ教育委員会や学校に言うよりも、もっと早い段階に踏み込み、地域や親が何か対策をしなければならぬ時期に来ていると思う。

→ (応答：義務教育課長)

- ・私自身も、昨年まで教育現場にいたが、今は子どもたちが育つ環境がかなり変わってきている。昔は子どもは物心ともに、我慢しなければならない状況があった。しかし豊かになってきているので、親は子どもたちに手をかけることができる。
- ・そして、子育てに関しても学校へ要望が挙がってくる時代となった。たくさん挙がって来て、対応出来ない状況もある。
- ・学校は学校、親は親、教育機関は教育機関がそれぞれの役割を果たす中で連携してやっていかなければならないと思う。

→ (応答：高野委員)

- ・1つは、最近のこどもは挨拶ができない。遅刻しても平気で入室するし、周囲に迷惑をかけている実感もない。授業にでることが目的化し、人生の大半を過ごす「社会人・職業人」としてどのように生きていくか、という視点が欠けているように思える。
- ・また、「笑顔」がないことが気になる。今後人口が減少するなかで、他とのコミュニケーションはより濃い密度となる。

- ・自分の子どもは学生寮で大学の4年間を過ごさせた。自分自身も両親に示唆され、学生寮で4年間を過ごした経験から、得るものがある、と実感していたからである。嫌だ!と思いながらも4年間「我慢」をした結果与えられたものは今、大いに役立っているように思う。わが子も「嫌だ!」と思ったらしいが、我慢した経験が何かを与えてくれる、と感じているようだ。「我慢」の経験は今必要なことのひとつと思う。

→ (応答：小林委員)

- ・うちも娘が2人いるが、言葉はほとんど交わさない。お小遣いでつながっている。
- ・親が悪いか、先生が悪いかといえば、我が家では親が悪いと思う。
- ・経営しているスーパーで万引きがあっても、まず飛んできて謝罪するのが学校の先生である。
- ・次に茶髪の親が来て、「うちの子はそんなことは絶対しない」など主張することが多いのが現状である。もちろん良い親の方が多いと信じている。
- ・教育の素人の私が教育委員となっているが、教育委員会の関係者は本当に純粋に教育を考えていると感じる。

(意見・質問7)

- ・授業参観のあとの懇談会は、親の出席率が悪い。役員のほかは2, 3人である。なるべく多くの親と懇談し、参加させる方法や工夫などあったら、伺いたい。

→ (応答：出席者)

- ・私の学校では、初めて父親が中心となって行う「清掃活動」を企画した。そうしたところ、意外に受けが良くて、多数の参加が予定されている。
- ・その後に懇談会を行う予定である。

(意見・質問8)

- ・自分は、高校時代の野球部に打ち込んだ経験が、とても良いものと感じている。
- ・「勉強だけではダメだよ。」ということが現在は、突きつけられていると思う。
- ・いろんなスポーツで、公立高校がベスト8に入るようになればいいと思うが、都留高校の校長先生はスポーツなんかどっちでもいいと言っている。

- ・そうではなく、勉強以外のことも大切だということを教えたらいかがでしょうか。

→ (応答：須田委員長)

- ・現在、子どもたちに起きている諸問題は、大人社会の反映であり、その責任は私たち大人にある。子どもたちは自ら悪い人になろうとはしないからである。
- ・日本の幸福感は様々あると思うが、未来を生きる子どもたちは、どのような子どもでも「必ず生きていく道がある。」そのことを基盤にしてキャリア教育は子どもたち一人ひとりの能力や個性や価値観を大切に、望ましい職業観や人生観を育てていく教育に他ならない。先生方は朝早くから夜遅くまで励んでいる。
- ・学校の先生方は、人格を形成していくという重大な責任を負っている。しかし、昨今、残念なことに多忙化や様々なストレスが原因で、心身の不調を訴えて病んでしまう先生も増えている。
- ・社会の変化に伴って保護者の価値観も多様化し、教育に関する様々な要求が学校現場に寄せられてきている。学校や教員への批判からは何も生み出さない。
- ・我が子を託した先生を信じて、批判だけではない建設的な話し合いをしていただけたらと切に願う。

→ (応答：久保嶋委員)

- ・家庭の教育力に厳しい指摘をされることがある。自分自身は一生懸命しているのに、批判は家庭にくると感じる人も多いのではないか。
- ・家庭だけを批判するのではなく、地域や学校と連携して、がんばりましょう。

→ (応答：渡邊委員長職務代理者)

- ・1年のあいだに、各県下でこういった形で対話する機会が何回かある。その中で、松下政経塾かキャリア組の先生のような委員もいれば、吉本興業所属のような委員もあり、大変ユニークな話ができ、皆様の貴重な意見をたくさん聞くことが出来たと思う。
- ・本日伺うことの出来た皆様の教育振興のための意見を、山梨県の教育発展のために役立てて邁進していきたいと思うのでご支援とご理解をお願いしたいと思う。